

新潟県の気候について (9報)*

野 呂 恒 夫*

6. 異常日照時間の旬別平均継続日数について

寡照日の旬別平均継続日数を県内各観測所について調べてみた1例を下図に示してあるが、いま全県平均を求めてみると、一般的傾向として、寡照日の平均継続日数の長い、即ち1.75日以上期間は、花曇り時期の4月上旬、梅雨期の6月下旬～7月下旬、台風期の9月中旬～9月下旬、10月中旬～3月中旬であり、冬期の12月上旬～2月下旬、梅雨期の7月上旬～中旬、9月中旬は2日以上も続き、特に12月下旬、1月中旬は3日以上も悪天候が続くのであるが、寡照日の継続日数の短い時期は4月中旬、五月晴れの5月上旬～中旬、6月上旬、8月中旬で1.5日以下である。

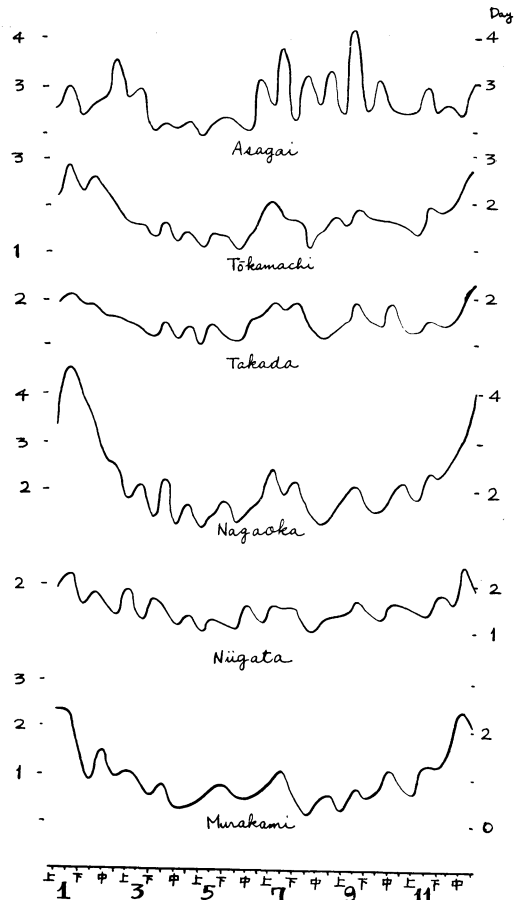
ここで注意すべきことは、7月下旬は前節でものべた如く、多照日の旬別出現率が40%以上と多くあられやすい時期であるのに寡照日も長く続く期間でもあることであり、また6月中旬、7月下旬～8月上旬は同様に寡照日が1.5日以上も続く期間でもあることである。

いま県内各観測所の寡照日の平均継続日数の長い期間を調べてみると、新潟周辺の3月上旬、三島、小千谷附近、中蒲は4月上旬、蒲原山沿は4月上旬～中旬と中蒲の5月上旬～中旬、岩船平場の5月下旬である。

また中魚山間平野部は6月上旬、西、中蒲は6月中旬、頸城、中越の山沿山間部は6月下旬、上中越平場、下越北部平場は7月上旬には長くなり、魚沼地方は7月上旬、上中越沿岸部、頸城山沿、下越北部平場は7月中旬、東頸山沿、頸城平場、中越平場および下越南部平場は7月下旬まで続くのである。下越北部、上越平場、山沼は9月中旬、古志は9月上～中旬、刈羽は10月中旬、新潟周辺は10月下旬、西頸沿岸部は10月中～下旬も長い時期であるが、頸城、魚沼山間部は8月下旬に長くなり北魚山間平野部は8月上旬、頸城高冷地は10月下旬まで続くのである。

蒲原山沿、西蒲、三島は9月中旬、中蒲、魚沼地方は

10月上旬、下越北部、古志、頸城山沿は10月中旬、刈羽、西頸は11月中旬、頸城平場および山間部、新潟周辺は12月中旬にはまた長くなり、新潟周辺は2月上旬、頸城平場および山沿、刈羽、魚沼山沿は2月下旬、三島、西頸沿岸部は3月上旬、中下越平場は3月中旬、頸城魚沼山間、北魚山間平野部は3月下旬、蒲原山沿、山間部は4月下旬まで続き、特に新潟周辺、上越地方以外の地域は12月下旬～1月中旬までは3日以上も寡照日が続くのである。ここで注意すべきことは、下越南部平場の6月中



第1図 寡照日旬別平均継続日数の年変化

* Climate of Niigata-Ken (IX)

** Tsuneo Noro, 新潟地方気象台

—1964年3月31日受理—

旬、中蒲、頸城平場、上越沿岸は7月下旬、三島は7月上～中旬は多照日の出現率が40%以上と多く現れる時期であるのに寡照日も長く続く期間であり、西頸、刈羽、下越平均平場、頸城魚沼山沿は6月中旬、頸城平場、刈羽の7月下旬、三島の7月上～中旬、新潟周辺の4月中旬、7月中～下旬、中蒲平場の7月上～8月上旬は同様に多照日が多く現われやすい時期に寡照日が1.5日以上と長く続く期間でもあることである。

この様な特性は上下越平場および沿岸部（砂丘地帯）のみで下越北部、中越平場、山沿、山間部にはみられないことが特徴である。

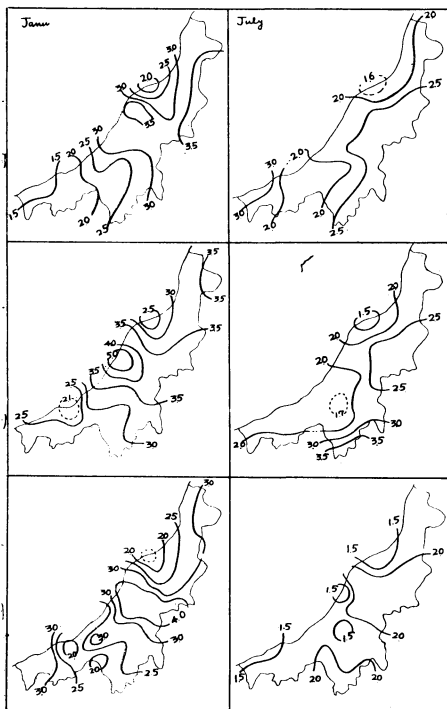
次に10.1時間以上の日の出現率が30%以上と多く現れる時期に、頸城平場および山沿、中蒲平場は6月中旬、西頸沿岸部の4月下旬、西、中蒲の7月上旬～8月上旬までの期間は寡照日も1.5日以上も続く期間であることに注意すべきであり、古志郡を境にして南北に走っている急峻な飛騨山脈系の西側と東側の局地的平場のみはこの様な現象がみられるのが特徴である。

寡照日の旬別平均継続日数の最大値の出現旬の地理分布を調べてみると、西頸沿岸部は7月上旬、魚沼高冷地は9月中旬、中蒲、北魚山間平野部、頸城平場は12月下

旬、下越平場は12月中旬、他の地域は1月中旬に旬別最大値が出現し、魚沼高冷地は7月中旬、頸城山間部、中魚山間平野部、中越平場、蒲原山沿は12月下旬、刈羽、頸城山沿は12月中旬、西蒲・下越北部は1月上旬、頸城平場、新潟周辺は1月中旬、西頸沿岸部、小千谷周辺は1月下旬に2位の最大値がするが、下越平場は月別最大値の出現順位は1, 12, 2月であるが12月中旬、刈羽、頸城山間部は12, 1, 2月であるが1月中旬に旬別最大値が出現し、いずれも最大月の各旬よりはるかに長いことである。また頸城平場は1, 7, 12月であるが12月下旬、西頸沿岸部は1, 12, 7月であるが7月上旬、魚沼高冷地は8, 2, 9月であるが9月中旬に旬別最大値が出現し、1, 2位の月の各旬よりはるかに長く、魚沼高冷地の7月中旬が2位の最大値であるのは興味深いものがある。

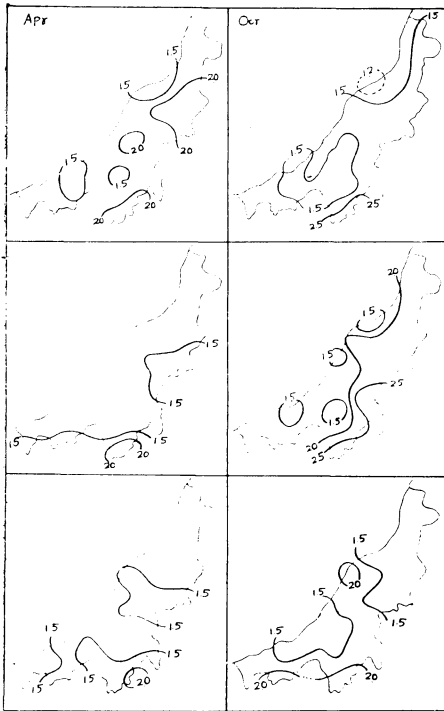
次に最小値の出現旬を調べてみると、東頸は4月中旬、新潟周辺、上中越平場、魚沼高冷地は5月上旬、西頸、小千谷周辺は5月中旬、魚沼地方、頸城山間部は6月上旬、下越南部平場は8月上旬、下越北部平場、蒲原山沿は8月中旬に旬別最小値が出現し、小千谷周辺は3月下旬、古志は4月中旬、三島は5月上旬、刈羽は5月中旬、頸城高冷地は5月下旬、頸城平場および山間部、下越平場は6月上旬、魚沼高冷地は6月中旬、頸城山沿、中魚、新潟周辺は8月上旬、西頸沿岸部、西蒲、蒲原山沿、魚沼山間部は8月中旬、下越北部は9月上旬に2位の最小値が出現し、月別最小値出現月に旬別最小値が出現するのは5月上旬に旬別最小値が出現する地方のみである。即ち下越北部は月別最小値の出現順位が4, 8, 6月、蒲原山沿は5, 8, 6月であるが8月上旬、魚沼山間平野部は5, 4, 8月、頸城高冷地は5, 11, 4月であるが6月上旬、東頸山沿は5, 4, 8月、東頸山間部は5, 4, 3月であるが4月中旬、三島は5, 6, 8月、中蒲は9, 8, 6月であるが8月中旬、魚沼高冷地は4, 5, 6月であるが5月上旬、小千谷周辺は8, 5, 6月であるが5月中旬に旬別最小値が出現し、最小月の各旬よりはるかに短いことであり、特に下越北部の9月上旬、古志の4月中旬、小千谷周辺の3月下旬、西頸沿岸部の1月上旬、頸城平場に6月上旬といずれも2位の最値が出現してをることは興味深いと思う。

不照日の平均継続日数を各観測所について調べてみた。いま全県平均を求めてみると、一般的傾向は寡照日の場合と同じであるが、不照日の長い期間、即ち1.50日以上の期間も寡照日と類似してるが若干異なる。即ち不照



第2図 寡照日の旬別平均継続日数の地理分布

日の継続日数の長い期間は4月上旬, 6月下~7月下旬, 9月中~下旬, 10月中~3月中旬までであり, 12月上~2月下旬, 7月上~下旬, 10月中旬は1.75日以上も続き, 特に冬期の12月中~2月上旬は2日以上も不照日の悪天候が続くのである。しかし不照日の継続日数の短い期間は寡照日と同一期間で1.3日以下である。ここで注意すべきことは, 7月下旬は多照日の出現率が40%以上と多く現れやすい時期であるのに不照日が1.75日以上も続く期間であり, 多照日の旬別出現率が35%以上も現れる時期であるのに7月下旬, 8月下旬は不照日が1.5日以上も続く期間でもあることである。



第3図 不照日の旬別平均継続日数の地理分布

いま県内各観測所について調べてみると, 不照日の平均継続日数の長い, 即ち1.75日以上の期間は下越北部の3月上旬, 5月下旬, 中蒲, 中越平場の4月上旬であり, 下越南部平場は6月中旬, 古志, 頸城蒲原山沿および山間部は6月下旬, 上越地方の平場山沿, 西蒲は7月上旬, 三島, 北魚山間平野部は7月中旬であるが, 古志は7月上旬, 頸城蒲原山沿および山間部, 三島, 下越南部平場は7月下旬, 中蒲は8月上旬まで続くのである。

また頸城山沿, 北魚山間平野部は8月下旬, 中越平場は9月上旬, 西蒲, 三島, 頸城山間部は9月中旬, 蒲原

山沿および山間部は9月中~下旬, 北魚山間平野部は9月下旬, 刈羽, 西頸沿岸部, 中下越山沿および山間部, 下越南部平場は10月中旬, 頸城高冷地は10月下旬, 特に西蒲砂丘地帯は10月中~下旬までである。

南蒲, 北魚山沿は11月上旬, 下越北部, 中越平場, 頸城山沿は11月中旬, 三島, 下越南部平場は11月下旬, 西頸沿岸部は12月上旬, 他の地域は12月中旬には長い期間となり, 頸城平場および山沿は2月中旬, 中越平場および山沿, 山間平野部, 西蒲, 頸城山間部は2月下旬, 下越北部は3月上旬, 頸城高冷地は3月中旬まで続くことあり, 下越南部平場の6月中旬, 三島の7月中~下旬, 中蒲の7月下~8月上旬, 8月下旬は多照日の出現率が40%以上と多く現れやすい時期であるのに不照日が長く続く期間でもあることであり, この様な特性が中下越砂丘地帯, 阿賀野川三角州地帯と局地的地帯であることが特徴である。また新潟周辺の4月上旬, 頸城高冷地の4月上~中旬, 西頸沿岸部, 頸城山沿の4月下旬, 三島, 小千谷周辺の5月下旬, 頸城平場, 下越南部平場の6月中旬, 頸城山沿の7月下旬, 中蒲の7月下旬~8月上旬, 三島の7月上~8月上旬, 頸城山沿の8月中旬, 中蒲平場の8月下旬は前記同様に多照日の出現率が多く現れやすい時期であるのに不照日の継続日数が1.5日以上も続く期間でもあり, 下越北部, 中下越山沿および山間部にはこの様な現象がみられないことが特徴である。

不照日の継続日数の最大値の出現旬の地理分布を調べてみると, 頸城平野および沿岸部, 魚沼山間平野部は7月上旬, 魚沼高冷地は7月中旬, 三島, 新潟周辺は12月中旬, 下越平場, 刈羽, 頸城高冷地は12月下旬, 蒲原山沿山間部, 頸城山沿は1月下旬, 中越平場 頸城山間部は1月中旬, 魚沼山間部2は月下旬に旬別最大値が出現し, 中蒲平場, 西頸沿岸部は12月中旬, 新潟辺, 東頸, 魚沼地方は12月下旬, 中越平場は1月上旬, 下越北部, 頸城山沿および高冷地は1月中旬, 頸城平場, 上越沿岸部は2月上旬に2位の最大値が出現するが, 寡照日と不照日の旬別最大値が同一の地方は東頸, 西頸沿岸部, 古志, 下越平場, 蒲原山沿地方のみである。

なかでも小千谷周辺は月別最大値の出現順位は1, 12, 7月, 西頸沿岸部は12, 7, 1月であるが7月上旬, 三島は1, 12, 2月であるが12月中旬が旬別最大値であり, いづれも最大月の各旬よりはるかに大きく, 頸城高冷地は1, 2, 9月であるが12月下旬に旬別最大値, 7月中旬が4位の最大値であり, 新潟周辺, 中蒲平場は12, 1, 7月であるが新潟周辺は11月下旬が3位, 4月上旬が4

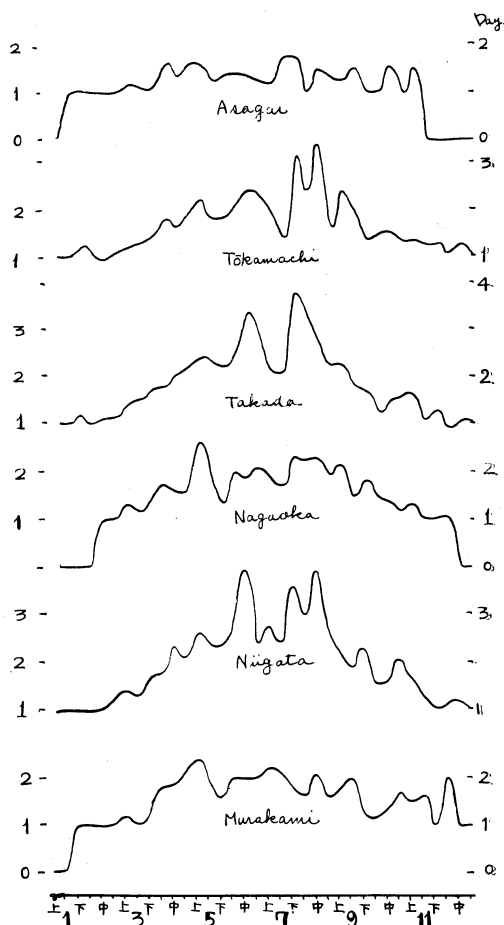
位、中蒲平場は3月上旬が3位の最大値であるのは興味深い。

次に最小値の出現旬をみると、下越北部は3月下旬、東頸山沿は4月中旬、中越平場、刈羽、魚沼高冷地は5月上旬、西頸、南蒲、北魚山沿は5月中旬、新潟周辺、頸城平場、中魚山間平野部、頸城高冷地は6月上旬、下越南部平場、三島、西頸沿岸部、北魚山間平野部は8月中旬に旬別最大値が出現し、東頸山間部、下越地方は4月中旬、魚沼山間部は4月下旬、西蒲、三島、蒲原東頸山沿、西頸沿岸部は5月上旬、頸城平場は5月中旬、刈羽、頸城高冷地は5月下旬、古志、北魚山間平野部は6月上旬、新潟周辺は8月上旬、魚沼山沿および山間平野部は8月下旬に2位の最大値が出現するが、寡照日の最小値と同一の地方は上中越沿岸部、中越平場、高冷地のみであると共に、月別最小値の出現月に旬別最小値が出現するのは上中越沿岸部と魚沼高冷地と局地的のみである。なかでも小出盆地附近は月別最小値の出現順位は6、4、5月、三島は5、4、6月、中蒲平場は5、9、4月、東頸山間部は3、5、6月であるがいつでも8月中旬に旬別最小値が出現し、頸城山間部は4月中旬に2位の最小値が出現し、また頸城平場は5、8、3月、頸城高冷地は5、11、4月であるが6月上旬、下越北部は8、4、9月であるが3月下旬といずれも月別最小月にみられないのが旬別最小値となつて出現してをるのは興味深いと思う。

多照日の旬別平均継続日数を県内各観測所について調べてみた1例を下図に示してあるが、いま全県平均を求めてみると一般的傾向として、多照日の平均継続日数の長い、即ち1.75日以上の期間は4月中～9月中旬までであるが、5月上～中旬、6月上～7月上旬、7月下～9月上旬は2日以上、特に6月中旬、7月下～8月中旬は2.5日以上も好天候が続き、短い期間は12月中旬～2月中旬の冬期で継続日数も1日以下である。

多照日の旬別出現率が多く現れやすい時期にも寡照日の旬別平均継続日数が長く続く期間があったが、一般的傾向からでは寡照日の出現率が多く現れやすい時期には多照日の継続日数が長く続く期間がないことが知られ興味深いものがあるが、梅雨期の7月中旬は寡照日の旬別出現率が35%以上と概して多く現れやすい時期であるのに、多照日の旬別平均継続日数が長く続く期間でもあるので注意しなくてはならないと思う。

いま県内各観測所について調べてみると、多照日の平均継続日数の長い、即ち1.75日以上の期間は、西蒲は3



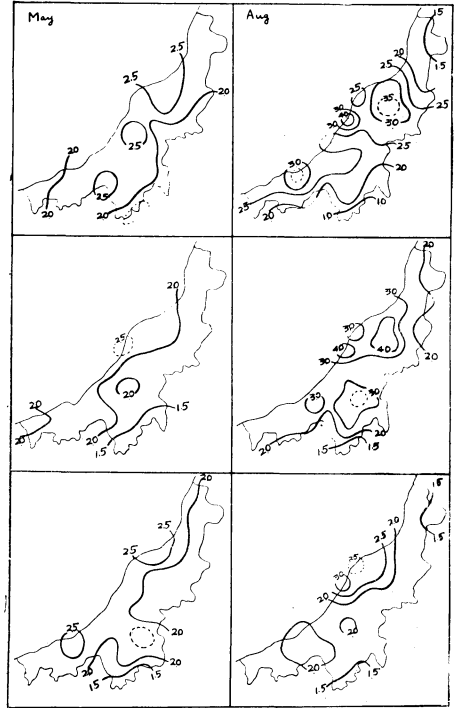
第5図 多照日の旬別平均継続日数の年変化

月上旬、三島は3月下～4月中旬であるが、下越北部、頸城平場、刈羽、十日町盆地附近は4月上旬、下越平場、小千谷周辺、東頸、西頸は4月中旬、蒲原山沿は4月下旬、古志、小出盆地附近は5月上旬より長くなり西頸沿岸部は9月上旬、頸城平場は9月中旬、新潟周辺は9月下旬まで長期間続くが、下越北部は5月上旬、刈羽、三島、古志、東頸山沿は5月中旬、頸城高冷地、小出盆地、蒲原山沿は6月下旬、魚沼山間平野部、東頸山間部は7月下旬まで続き、西蒲、三島、中蒲は5月上旬より又長くなり、西蒲は7月上旬まで続くが、中蒲平場は9月下旬、三島平場は10月上旬までと長期間続くのである。下越北部、古志平場、刈羽、東頸山沿は6月上旬、蒲原山沿、魚沼高冷地は7月中旬、中越平場、魚沼山間平野部、頸城山間部は7月下旬からまた長くなり、魚沼高冷地は7月下旬までしか続かないが、頸城山沿および

山間部，蒲原山沿は9月上旬，下越北部，上越沿岸部，魚沼山間平野部は9月中旬，中下越平場は9月下旬まで長期間続くのである。小出盆地は10月上旬，下越南部，中越平場，刈羽は10月下旬にまた長くなるが三島平場は11月上旬まで続くのである。

なかでも新潟周辺，中蒲，古志平場は5月上旬，三島は5月中旬，平場および沿岸部は6月中旬，上越，魚沼山間平野部，中下越平場は7月下旬，蒲原山沿は8月上旬，上越平場および山沿，魚沼山間平野部，下越南部平場の8月中旬は2.5日以上も多照日が続くが，特に中蒲平場は5月上～6月中旬，頸城平場は6月上～下旬，新潟周辺は6月上～中旬，頸城平場および山沿，新潟周辺，中蒲平場，小千谷周辺は7月下～8月中旬，三島平場は7月下～9月上旬までの期間が続くのである。しかし西蒲の3月上旬，頸城高冷地の6月下旬，中蒲の7月上旬，蒲原山沿の7月中旬，魚沼高冷地の7月中～下旬，小出盆地の9月中旬は寡照日の旬別出現率が40%以上と多く現れやすい時期であるのに多照日の継続日数も長く続く期間でもあり，いま寡照日の出現率が35%以上で概して多く現われる時期でしかも多照日の継続日数が長く続く期間を各観測所について調べてみると，西蒲の3月上旬，蒲原山沿の4月下旬，小出盆地附近の6月中旬，西頸，頸城山間部，中蒲山沿は6月下旬，特に西頸沿岸部は6月下～7月上旬，中蒲山沿は6月下～7月中旬であり，また中越平場は7月上旬，蒲原山沿の7月中旬，魚沼高冷地の7月中～下旬，魚沼山間平野部，下越北部は9月中旬，古志，南蒲平場は9月下旬，三島の11月上旬はそうであるから注意すべきである。また中蒲平場，三島の7月上旬，蒲原山沿の7月中旬，魚沼高冷地の7月中～下旬，小出盆地附近の10月上旬は不照日の旬別出現率が35%以上と多く現れやすい時期であるのに多照日の継続日数も長く続く期間であり，前述の寡照日の場合と立地条件により出現旬がことなることが興味深いと思う。

多照日の旬別平均継続日数の最大値の出現旬の地理分布を調べてみると，下越北部，東頸山間部，古志は5月上旬，西蒲は6月中旬，魚沼高冷地は7月中旬，中頸，刈羽は7月下旬，三島，西頸沿岸部，蒲原山沿は8月上旬，魚沼山間平野部，東頸山沿，下越平場は8月中旬に旬別最大値が出現し，新潟周辺，小千谷附近は6月中旬，小出盆地附近は6月上旬，下越北部は7月上旬，西頸沿岸部は7月中旬，中南魚沼，古志，蒲原山沿は7月下旬，頸城中蒲平場は8月上旬，上中越沿岸部は8月中旬に2位の最大値が出現するが，西頸沿岸部は月別最大値の



第5図 多照日の旬別平均継続日数の地理分布

出現順位は7，8，6月であるが8月上旬，下越北部は6，7，5月であるが5月上旬，頸城平場は6，8，7月であるが7月下旬，特に古志は8，7，6月であるが5月上旬，頸城高冷地は5，8，4月であるが7月下旬といづれも月別最大値の出現順位に含まれない月の旬に旬別最大値が出現することは興味深いものがあり，最大月の各旬よりもはるかに大きい，他の地域は最大値出現月の旬に旬別最大値が出現してをる。

10. 1時間以上の日の旬別平均継続日数を県内各観測所について調べ，いま全県平均を求めてみると一般的傾向は多照日の場合と同じであるが，継続日数の長い期間即ち1.75日以上の期間は5月上旬，6月上～中旬，7月下～8月中旬であり，特に7月下旬は2日以上も続くのである。いま県内各観測所の継続日数の長い期間を調べてみると，西頸沿岸部，中蒲平場は3月上旬，三島，下越北部は4月上旬，新潟周辺，頸城平場および山沿は4月中旬，中蒲平場は4月下旬であるが三島は4月中旬，頸城平場は5月中旬まで続き，中蒲平場は7月上旬まで長期間続くのである。下越北部，魚沼山間部以外は5月上旬は長く続く期間であるが頸城高冷地は5月中旬まで続き，三島は5月下旬，上中越地方，下越平場は6月上旬，

頸城山間部は6月中旬、蒲原山沿は6月下旬に長くなり、頸城魚沼山間部は8月上旬、蒲原頸城山沿、魚沼山間平野部は8月中旬、小千谷周辺、西頸沿岸部は8月下旬、中越頸城平場、下越北部は9月上旬、下越常場は9月中旬まで続くのである。中越沿岸部は10月上旬、中蒲蒲地方は10月中旬もそうであり、秋晴れの好天気が続くのは局地的であるのが興味深い、中蒲平場、西頸沿岸部の3月上旬、魚沼高冷地の6月上旬、中蒲山沿の7月中旬、小出盆地附近の9月中旬、蒲原山沿の10月下旬は寡照日の旬別出現率が40%以上と多く現れやすい時期であるのに10.1時間以上の日も長く続く期間でもあるから注意すべきである。

10.1時間以上の日の旬別平均継続日数の最大値の出現旬の地理分布を調べてみると、頸城高冷地は5月上旬、西蒲、魚沼高冷地は6月上旬、東頸山間部、小出盆地附近、三島は6月中旬、刈羽は7月上旬、蒲原山沿は7月中旬、頸城平場、魚沼山間平野部、古志地方は7月下旬、西頸沿岸部、中蒲は8月上旬、新潟周辺は8月中旬、下越北部は9月上旬に旬別最大値が出現するが、多照が日の旬別最大値の出現旬と同一地方は新潟周辺と頸城地方のみである。

十日町附近は月別最大値の出現順位は6, 7, 5月、頸城平場は6, 7, 8月であるが7月下旬、頸城高冷地は6, 5, 8月であるが5月上旬が旬別最大値であり、古志は9, 8, 7月、小千谷周辺は8, 6, 7月であるが7月下旬、西蒲は7, 10, 6月であるが6月上旬といずれも月別最大値出現順位が3位の月の旬に旬別最大値が出現するのに反し、下越北部は7, 8, 6月であるが9月上旬、東頸山間部は5, 7, 8月であるが6月下旬と最大値の出現月の順位に含まれない月の旬に旬別最大値が出現してをり、小出盆地近近は6, 7, 5月であるが8月中旬、西頸沿岸部は8, 7, 6月であるが9月上旬にいずれも2位の最大値が出現するのが興味深いものがあるが、他の地域は月別最大値出現月に旬別最大値が出現している。

7. 定量的見地からみた日照時間の出現率について

前述までの解析は日間日照時間から論じてきたが、1日の日照時間を論ずる場合はその絶対量が問題になるほか、可照時間に対する割合、即ち日照率の大小が問題になる場合があるので下表の如き分類の試案にもとずいてその出現率を県内各観測所について求めてみた1例を第1表に示してある。

いま各観測所の各型別の出現率の年変化を調べてみる

と。Oc型は第2位の最小の出現月が東頸山沿、西頸沿岸部は4月、蒲原山沿は6月、小出盆地附近は5月に出現する外はいずれも寡照日の出現率の年変化型と同一で

日照時間が可照時間に対する百分比の範囲	天気用語	型
20 % 未 満	曇り	Oc
20%以上40%未満	曇り一時晴れ	Mc
40%以上60%未満	晴れたり曇ったり	Vc
60%以上80%未満	晴れ一時曇り	Pc
80 % 以 上	晴れ	Fc

ある。即ち新潟周辺、中頸、東頸山間部、魚沼山間平野部は12~2月、西蒲、三島、刈羽、東頸山沿、岩船は11~2月、古志、蒲原山沿山間部、南北魚山間部は11~3月までは50%以上であり、特に西頸沿岸部、刈羽、東頸山沿の1月、西蒲は1, 2月、三島、岩船は12~1月、古志、蒲原山沿山間部、北魚山間部は12~2月までは70%以上である。

Mc型は下越平場、上中越沿岸部、頸城平場はU字型に類似の年変化であるが、高冷地、小出盆地附近は暖候期が多く寒候期に小さい変化型であり、他の地域は大体年間を通じて大差がなく15%前後である。

Vc型は新潟周辺、頸城平場、高冷地は年間を通じてあまり変化がなく15%前後であるが、他の地域は暖候期が多く寒候期は少ない型であり、沿岸部ほどこの傾向が大きい。

Pc型は魚沼高冷地はU字型であるが、頸城高冷地および山間部は春には最大となり、その後漸減するという左傾型であり、他の地域はVc型以上に暖候期が多く寒候期が少ない変化型である。特に岩船、西蒲、刈羽、頸城平場、蒲原東頸山沿は多照日の出現率の変化型と同一である。

Fc型は新潟周辺、中蒲、三島、頸城平場は暖候期が多く寒候期が少ない変化型であり、刈羽、西蒲、岩船、西頸沿岸部はU字型、他の地域は左傾型であるが、十日町盆地附近、頸城高冷地以外は年間を通じて15%以下の年変化型と同一である。

次に各型の最大値の出現月を調べてみると、Oc型は新潟周辺、中蒲は12月、魚沼高冷地は2月、他の地域は1月に最大値が出現し寡照日の最大値の出現月の地理分布と殆んど類似であり、頸城平場および沿岸部、三島、岩船は12月、新潟周辺は1月、魚沼高冷地は3月、他の

第1表 日照率別月別出現率

種		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
新 潟	Oc	60.5	51.8	32.3	27.9	23.3	19.7	29.0	15.4	29.5	34.2	42.6	61.5
	Mc	20.1	21.0	21.1	10.0	12.7	11.3	11.8	11.4	14.1	12.7	20.0	16.1
	Vc	10.9	15.8	21.0	11.3	16.1	17.4	18.6	14.9	16.4	15.1	13.8	10.5
	Pc	5.7	8.2	13.2	23.1	22.3	27.2	21.6	24.5	20.3	16.9	13.3	6.9
	Fc	2.7	3.3	12.4	27.7	25.6	24.4	18.9	33.7	19.7	21.1	10.3	5.0
高 田	Oc	61.0	55.6	36.7	27.4	27.0	31.0	33.5	21.6	34.9	38.5	36.9	60.5
	Mc	14.1	14.2	16.4	11.0	11.9	11.3	15.4	11.9	16.4	13.6	21.3	13.2
	Vc	11.3	15.2	15.1	15.1	15.1	16.4	17.9	20.1	19.0	11.9	13.6	10.9
	Pc	8.4	9.8	14.9	20.8	23.6	22.6	23.0	24.3	15.9	20.1	14.7	6.7
	Fc	5.2	5.2	16.9	25.6	22.3	18.7	10.2	22.1	13.8	15.9	13.3	8.7
長 岡	Oc	84.1	79.0	56.3	39.2	39.4	36.7	46.0	27.1	45.5	48.5	64.7	74.2
	Mc	7.4	9.5	15.1	18.5	12.2	18.7	15.6	16.7	18.0	15.4	13.1	11.0
	Vc	4.5	7.1	15.6	11.3	16.9	20.0	17.2	20.7	17.8	14.3	7.2	7.8
	Pc	4.0	3.5	8.4	23.3	23.3	18.5	19.6	28.5	12.2	17.0	13.0	6.4
	Fc	0.0	0.8	4.5	7.7	8.2	6.1	1.6	7.0	6.4	4.8	1.9	0.5
十 日 町	Oc	68.3	66.5	45.7	34.8	29.3	30.8	38.0	21.4	41.5	41.9	49.7	65.0
	Mc	11.6	12.1	14.8	11.4	12.9	14.7	18.8	16.7	13.9	15.5	17.8	12.9
	Vc	9.7	11.2	14.5	12.5	16.4	17.5	18.5	21.7	19.4	13.5	11.9	8.9
	Pc	6.7	6.2	12.9	21.2	21.5	21.7	18.8	27.9	13.3	16.4	8.9	7.2
	Fc	3.8	4.1	12.1	20.1	19.9	15.3	5.9	12.3	11.8	12.6	11.7	6.0

地域は2月に2位の最大値が出現する。Mc型は下越内陸平場、頸城平場は11月、刈羽、三島、下越沿岸部、小千谷周辺は3月、古志、蒲原山沿山間部、魚沼高冷地は6月、東頸山間部、中魚山間平野部は7月、頸城山沿高冷地、北魚山間平野部は8月、西頸沿岸部は9月に最大値が出現し、新潟周辺は2月、頸城下越平場は3月、蒲原山沿山間部は5月、頸城高冷地は7月、西頸沿岸部、魚沼高冷地は8月、中越平場、北魚山間平野部、下越北部は9月、他の地域は11月に2位の最大値が出現する。Vc型は新潟周辺は3月、高冷地は5月、刈羽、三島、西一南蒲は6月、他の地域は8月に最大値が出現し、古志、魚沼、東頸、下越平場は6月、新潟周辺、西蒲、上越沿岸部、魚沼高冷地は7月、蒲原山沿山間部は8月、頸平場は9月、頸城高冷地は11月に2位の最大値が出現する。Pc型は下越北部、高冷地は4月、頸城山間部は5月、新潟周辺は6月、他の地域は8月に最大値が出現し、北魚沼は4月、頸城地方、中越沿岸部、西蒲、南蒲山沿は5月、蒲原山沿山間部、十日町盆地附近は6月、下越平場は8月、魚沼高冷地は11月に2位の最大値が出現する。Fc型は中越平場、小出盆地附近、魚沼高冷地

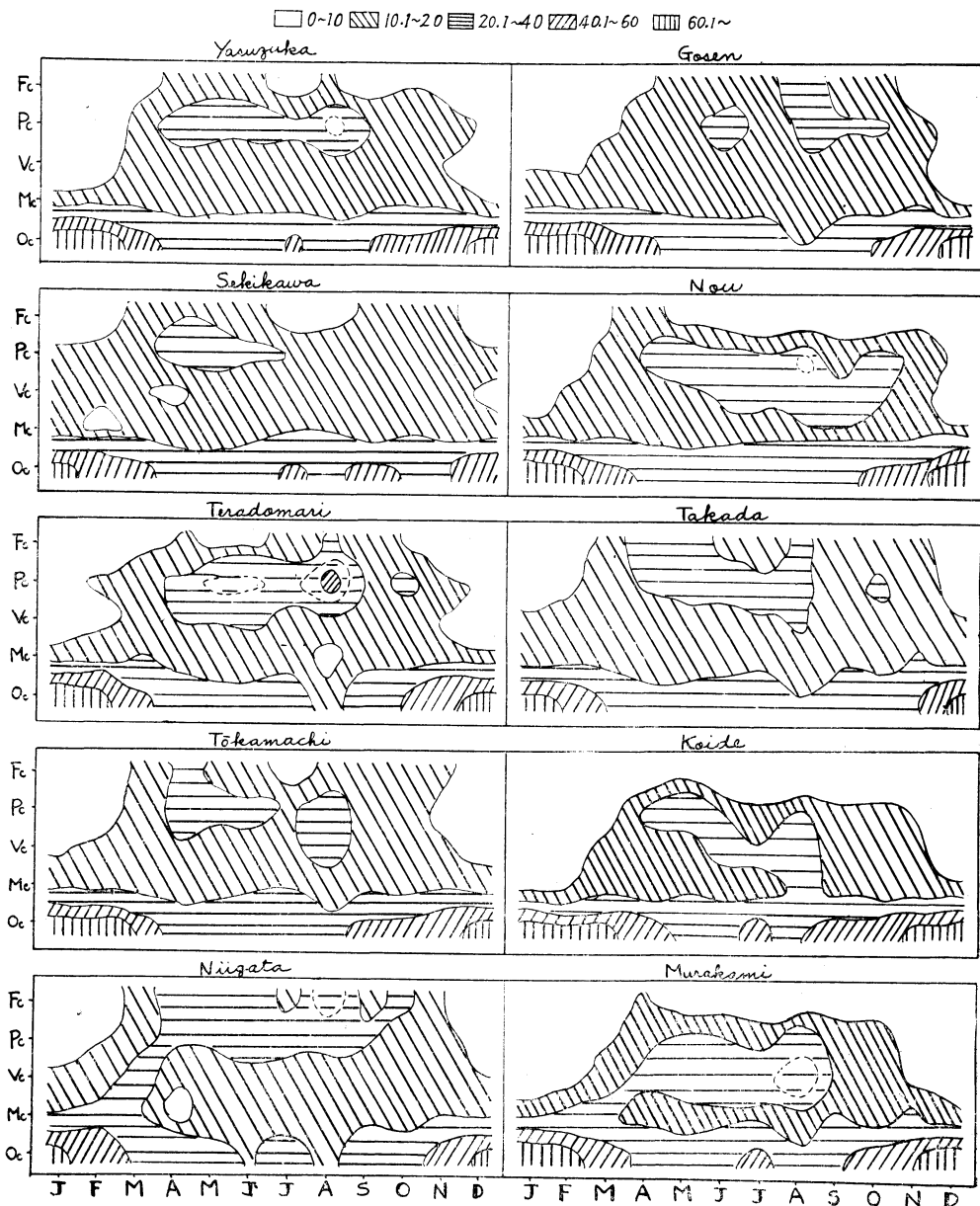
は5月、西蒲を除く下越平場、三島は8月、他の地域は4月に最大値が出現し、東頸山間部、西頸、魚沼山間部は3月、新潟周辺、中越平場は4月、中頸、東頸山沿、魚沼山間平野部、下越平場、南蒲山沿は5月、西蒲、下越山沿山間部は8月、刈羽、三島は9月に2位の最大値が出現する。

次に最小値の出現月を調べてみると、Oc型は高冷地は5月である外は8月に最小値が出現し寡照日の最小値の出現月の地理分布と同一であり、西頸、高冷地は4月、古志以南の中城越地方は5月、古志以北は6月に2位の最小値が出現する。Mc型は高冷地は2月、下越平場、頸城平場、刈羽、東頸山間部、中魚山間平野部は4月、西蒲、三島は8月、東頸山沿、西頸、下越山沿および北部平場は12月、他は1月に最小値が出現し、西頸、中越地方は2月、下越北部は4月、頸城平場は6月、中北蒲平場は7月、上越地方および高冷地は1月に2位の最小値が出現する。Vc型は下越平場、西頸、頸城平場、魚沼山間平野部、東頸山間部は12月に1位、1月に2位、頸城高冷地は4月に1位、12月に2位、東頸山沿は2月、魚沼高冷地は3月、他の地域は1月に1位、2月に

2位の最小値が出現し、刈羽、北魚山沿、岩船は12月に2位の最小値が出現する。Pc型は西蒲を除いた下越平場、三島、西頸、頸城高冷地、北魚山沿山間平野部は1月に1位、2月が2位、頸城平場は12月、魚沼高冷地は7月が1位、2月が2位、他の地域は2月が1位、1月に2位の最小値が出現するが頸城高冷地、中下越沿岸部は12月に2位の最小値が出現する。Fc型は刈羽、東頸

山間部は7月、小出盆地附近は11月、北魚山沿、西中蒲は2月、いずれも1月に2位、三島は12月に1位、2月に2位、西頸は10月、他の地域は1月に1位、2月に2位の最小値が出現するが西頸、頸城高冷地は7月に2位の最小値が出現し、本県に於ける気団の動向にともなう立地による癖を如実に示した興味ある分布である。

次に月別にどの型が一番多く出現するか調べてみると



第6図 月別日照率別出現率のインプレット

8月以外は新潟周辺、刈羽、三島と局地的には、5、6月はPc型である外はいずれもOc型、即ち日照率が20%未満と言う悪天日が一番多く出現する。しかし8月は岩船、小出盆地附近はVc型、下越平場はFc型、頸城魚沼山間部、蒲原山沿山間部はOc型、他の地域はPc型が一番多く出現する。

これについて冬期は各地共Mc型、3、11月は局地を除くとMc型、4~7月、9~10月も局地を除くとPc型がこれについて出現する。即ち5月の新潟周辺、5、6月の三島刈羽沿岸部はOc型、3、4月の頸城平場、4、6月の新潟周辺はFc型、3月の東頸、古志、4~7月の岩船、6月の中下越山沿山間部、7月の西蒲、小出盆地附近、9月の十日町盆地附近、上越平場、沿岸部、10月の中越山間部はVc型、6、7月の魚沼高冷地、9、10月の岩船、9月の魚沼山沿、山間部、東頸山間部、10月の蒲原山沿山間部はMc型、3、11月は高冷地はPc型がこれについて多く出現するが、8月は両蒲を除く中下越平場、東頸山間部はPc型、三島、頸城平場はFc型、十日町盆地附近、西頸沿岸部はVc型、高冷地はMc型であるが他はOc型である。即ち8月以外は局地を除くとOc型が一番多く出現しPc型がこれについて多く出現することが知られたが、いま各月の最多出現型の出現率を調べてみると、冬期は中蒲、新潟周辺は60%内外であるが、1月は下越平場、頸城山間部、中南魚沼地方は70%以下であるが古志山沿、蒲原山沿山間部、北魚沼山間部は80%以上である。2月は西蒲、中越地方、蒲原山沿山間部、12月の南魚沼を除く中越地方、下越北部および下越山沿山間部は70%以上である。

中下越山沿山間部は3、11月は60%以上であるが、3月の下越、頸城平場、11月の頸平場および高冷地は40%以下であるが、新潟周辺20km以内、西頸、頸城山間

部、中魚沼山間平野部は50%以下である。

4、5月の新潟周辺、頸城平場、6月の新潟周辺20km以内、7、9月は新潟周辺、8月の魚沼山間平野部、古志および頸城平場は30%以下であるが、4月の中下越山沿山間部、6月の魚沼山間部、8月の三島、魚沼山間部、9月の西蒲、下越山沿山間部、中越地方、中魚沼、頸城山沿山間部はいずれも40%以上である。

また7月の下越平場、上越平場および沿岸部、10月の新潟周辺、中頸地方は40%以下であるが、5月の下越北部および中下越山沿山間部、7、10月の魚沼、蒲原山間部は50%以上であり、特に魚沼高冷地は4、6、8月は50%以上、7、9、10月は60%である。

ついで2位の出現型の出現率の地理分布は、1月の新潟周辺、2月の下越北部平場、3月の下越平場、9月の下越および西頸沿岸部、10月の頸城平場および沿岸部、三島、中越平場、11月の下越および頸城平場は20%以上、2月の頸城平場、下越地方、12月の新潟周辺、西蒲、頸城高冷地は15%以上であるが他の地域はこれ以下であり、特に1月の蒲原、古志、北魚山沿山間部、12月の中蒲、頸城山沿および西頸沿岸部は10%、3、10月の魚沼蒲原山沿山間部は15%以下である。

4月の新潟周辺、刈羽、頸城地方、5、6月の岩船、西蒲、上中越沿岸部、6月の東頸山沿、8月の中越平場、南蒲山沿は25%以上であるが、4、5、7月の蒲原山沿山間部、4、7月の魚沼山間部、7月の頸城山間部、8月の頸城高冷地は20%以下である。

いま参考のために各観測所の日照率別月別出現率のインプレットを求めてみた1例を第6図に示してあるが、前述の通り、立地条件によって非常に特徴ある分布を示していることがあわせて知ることが出来ると思う。

関西支部ニュース (1)

理事会開催状況

本年度第1回理事会は5月28日大阪共済会館に於て、新日理事のひきつぎをかねて開かれた。
第1回常任理事会は6月29日に大阪管区気象台会議室において開かれた。
また同日第1回月例会運営委員会がひきつぎについて開かれた。運営委員は常任理事全員の他に大西慶市、股野宏志、光田寧、今田克、矢吹万寿の各氏である。
これ等の理事会、委員会で決定した事項については、それぞれ別項に説明する。

昭和39年度月例会開催予定

6月29日の月例会運営委員会で今年度は次のような題

目で月例会を開くことを予定した。

開催月	題目	開催地	担当委員
10月	「水害」	京都	勝井
11月	「台風」	神戸	吉野
12月	「世界の気象界の現状」	大阪	山元
1月	「強風の構造」	大阪	光田
2月	「数値予報」	大阪	中島
3月	「大気汚染と公害」	大阪	中野
中国、四国地区月例会			
11月	「大雨」	松山	
未定	未定	広島	

(355頁へ続く)